

高齢者体験セットを身に付ける前後の 「高齢者に関する記述」の変化

福田博美* 秋山志津子** 石井美紀代***
Hiromi FUKUDA Shizuko AKIYAMA Mikiyo ISHII

*養護教育講座

**名古屋市立大高等学校

***西南女学院大学

I はじめに

平成元年に示された学習指導要領の基本方針のひとつである「心豊かな人間育成」を受けて、各学校では特別活動を中心に高齢者に関わる施設への訪問など様々な奉仕活動が実践された。さらに、平成10年7月の教育課程審議会の示した「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校および養護学校の教育課程の基準の改善について」答申において、福祉・介護に関わる内容が随所に見られ、特に少子高齢社会への対応等として、「(略) 高齢者のために主体的に行動し実践する態度を育成するとともに、他者を尊重する態度や尊敬する気持ち、他人を思いやる気持ちや共に生きていくという考え方などをはぐくむことは極めて大切である。」や「(略) 今後は、各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間において、それぞれの教科の特質に応じ、少子高齢社会に関する基礎的理解、家族関係や子育ての意義、介護・福祉など少子高齢社会の課題に関する理解を深めるとともに、実際に幼児、高齢者や障害のある人と交流し、触れ合う活動や、介護・福祉に関するボランティア活動を体験することを重視する必要がある。」と総合的な学習との関係も示された。このことから、平成14年度からの本格的な総合的な学習の導入を前に、介護・福祉の項目を学習するにあたり、高齢者体験セットが注目を浴びている。そこで、この体験セットを通じてどのような学びを得ることができるのか検討したい。

II 方法

平成13年度の総合的な学習の時間の一部を用いて、中学1年生122名(男66名、女56名)に実施した。実施した内容は、次のとおりである。まず、「老人は……です。」に言葉を入れ文章を完成させた(最大10の記入枠)。次に、6~7人の班に高齢者体験セット(高研製:高齢者体験セット LM-060, 肘・膝・指関節の拘束具各左右一対, 手首錘0.5kg・足首錘1kg各左右一対, 円背になる背中プロテクター, 手袋, 周辺視野欠損と白内障を想定したゴーグル, 高周波音域を遮断する耳

栓)を1セット渡し、生徒が交互に装着しての校内の歩行や介助の体験を行った。さらに、体験後に体験前と同様に文章を完成させた。本研究では生徒が記述した内容を、量的と質的に分析した。

III 結果

記述に偏りのあったものや高齢者に関する記述をしなかった4名を除き、118名(男66名、女52名)を分析対象とした。

1. 高齢者体験前後の記述数(表1)

体験前の記述数は全体で738個あり、1人あたり平均 6.3 ± 3.1 個であった。体験後の記述数は全体で475個であり、1人あたり平均 4.0 ± 2.6 個であった。体験前に全く記述のなかった3名は、体験後には1名が5個、2名が1個記入できていた。体験前後の記述数の変化を、体験前の平均値6個で区切って比較した。体験前の記述数が6個以下の者(60人)は、体験後が1人あたり平均 2.8 ± 1.8 個であったのに対し、体験前の記述数が7個以上の者(58人)は、体験後が1人あたり平均 5.3 ± 2.6 個であった。

2. 体験前の記述内容(表2)

加齢による心身の変化を小池²⁾は、脳(記憶の低下・ボケ等)、目(老眼・視野狭窄等)、耳(高音域欠損)、歯(歯牙欠損・入れ歯)、皮膚(しわ・しみ)、呼吸器(肺活量の減少)、消化器(むせ・味覚鈍化)、心臓、血管、泌尿器、骨粗鬆症、筋肉(やせる)、運動機能(動作がゆっくり)、内分泌の低下(基礎代謝の低下)、体成分の変化(総水分の減少)、記名力の低下、理解力・洞察力の向上を挙げている。この項目に当てはめながら、記述内容を、高齢者の加齢による心身の変化の記述とそれ以外に分類した。体験前の記述内容は、加齢に伴う心身の変化に関する記述が584個(79%)、心身の変化以外の記述が154個(21%)であった。

心身の変化に関する記述では、「白髪・はげ」「杖についている人もいる」「しわくちゃ」「歯がない」といった形態の変化、「目が見えにくい」「耳が遠い」「足腰が弱い」といった機能の変化が書かれていた。これらの記述は、頭から足まで全身の変化を捉えていた。心身

の変化以外の記述では、「演歌が好き」といった行動の特徴や、「朝が早い」といった生活習慣を捉えていた。また、「私より体力がある」「元気すぎる」といった表現もあった。この他にも「テレビコマーシャルにいがいとでる」とマスメディアからの情報を記入している者もあった。

3. 体験前・後の記述内容 (表3, 表4, 表5)

体験後の記述内容は、加齢に伴う心身の変化に関する記述が467個 (98.0%) と心身の変化に記述が偏り、心身の変化以外の記述は「すごい」「ストロング」など8個 (2.0%) であった (表3)。

体験前に記述の多かった加齢に伴う心身の変化に関する記述は、しわ、白髪、目、歯、耳の順であった。体験後には、しわ、白髪、歯に関する記述は減少し、体験セットで経験する目や耳に関する記述数が突出した (表4)。

体験の前後共に記述数が多かった目に関する記述について見ると、体験前は「目が悪そう」「目が悪い」など抽象的な書き方をしているものが多いが、体験後は「視野が狭い」「身の回りがよく見えない」など具体的な記述に変わっていた (表5)。また、体験後には、四肢の錘および身体の器具の重さの体験から「重いものを持っているみたい」といった負荷を感じた様子、耳栓による耳の聞こえづらさなどが具体的に表現されていた。さらに、拘束具による体験から「手足腰が不自由で大変そう」「視野が狭いので人とぶつかることが多そう」といった自らの体験を高齢者の立場に変換し高齢者を思いやる記述も見られた。

IV 考 察

1. 高齢者体験の記述数

高齢者体験前の記述数は738個にのぼり、一人あたり6.3個の記述があった。また、10個全て埋めている生徒も約4分の1いた。戸井³⁾は、小学生であっても高齢者の体の変化や高齢社会による社会問題およびその解決方法を知識として持っているとしている。今回の研究においても、中学生が多数の高齢者に関する記述を行っていたことから知識量の豊富さが窺えた。

さらに、事前には高齢者についての記述が全く出来なかったものが、体験を行うことで、全員いくつかが記述できており、高齢者を知る動機付けになりうると思われる。

また、体験前の記述数が7個以上の者は、6個以下の者に比べ体験後に約倍の記述が出来ており、事前の知識量により体験の学習効果に差が出る可能性が示された。

2. 体験前の記述

体験前の記述全体を見ると、高齢者の加齢による心身の変化、社会的変化、個人差の大きいことなど全てあげられており、彼ら的高齢者のイメージは多岐に

渡っていた。高齢者のイメージに影響する要因は、性別、祖父母との接触頻度、老人との過去の経験などであり、高齢者との接触が重要であるとされている⁴⁾。今回記入の少なかった高齢者の多様性などは、同居などの祖父母との接触が影響したことが考えられる。このような、知識の偏りを解消するためにも、授業を工夫する必要があるだろう。今回の総合的な学習の福祉の授業は4時間のみであり、ハンディキャップ体験は1時間のみを割り当てられていたため、皆が持っている高齢者のイメージを共有化するには至っていない。時間を割くことが可能であるならば、あまり書かれていなかった個人差の大きいことや高齢者の知識の豊富さなど事前にディスカッションを行って共有することで、事前に記述数の少ないかった生徒のイメージを広げ体験の効果を向上することができたと考える。

さらに、今回記述された「コマーシャルにいがいとでる」などマスメディアの影響も中学生には大きいと思われる。調査時点に、日本テレビ系列局で放送していた「モー。たいへんでした」でモーニング娘が高齢者体験を行っており、「ミニモニ」と記述している生徒も複数あった。このように、アイドル達の等身大の活躍が子どもに影響を与えており、マスメディアには高齢者について正しい情報を提供して欲しいものである。さらに、このような高齢者を取り扱ったマスメディアを利用した教育も高齢社会の基礎的理解において、中学生には効果をあげられると思われる。

3. 体験の有効性

高齢者体験後には、1人の書く記述数は減少していた。この原因の一つとしては授業時間内に十分時間がとれなかったことがあるであろう。また、体験前に記述をしているため同じ内容は記入せず、新しい発見を中心に記述されたことも大きいと思われる。目に関する記述でも見たように、同じ目の状態を体験前は「目が悪い」のみであったが、体験後は「目の周りがよく見えにくい」と具体的で、自らを高齢者の立場においた記述がなされた。このことは、看護学生を対象とした佐藤ら⁵⁾が提案している「INTO AGING」という高齢者体験のシミュレーションゲームでも同様の効果を示している。高齢者体験は、老年期をいかに生きるかを考え、老年期の生活を実感するとともに、いかに老年期にある人をケアしたらよいかに関心をもつ効果があることが考えられる。これは、先の答申に示された「(略)高齢者のために主体的に行動し実践する態度を育成するとともに、他者を尊重する態度や尊敬する気持ち、他人を思いやる気持ちや共に生きていくという考え方などをはぐくむことは極めて大切である。」を達成するためにも、中学生において高齢者体験セットで的高齢者体験は適当と思われた。

表1 体験前後の記入数

記入数	体験後											合計
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
2	0	1	3	1	1	0	0	1	0	0	0	7
3	1	3	3	6	1	1	0	0	0	0	0	15
4	1	0	5	4	1	2	0	0	0	0	0	13
5	0	0	3	1	1	0	1	2	0	0	0	8
6	1	3	1	1	1	2	0	1	0	0	0	10
7	0	0	0	4	1	3	3	2	0	0	0	13
8	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
9	1	0	4	1	0	1	2	1	0	1	1	12
10	0	0	3	4	4	6	1	3	2	0	7	30
合計	5	10	24	22	12	16	8	10	2	1	8	118

表2 体験前の高齢者に対する記述

老化に伴う心身の変化の記述 (584個の一部抜粋)		その他の記述 (154個の一部抜粋)	
白髪	目が見にくい	朝が早い	いつも散歩してそう
耳が遠い	歯がない	演歌が好き	花が好き
手が震える	眉毛が長い	老衰して死にそう	年金ぐらし
腰が曲がっている	骨がよわっている	していることが多い	戦争をけいけんしている
足が悪い	のろい	昔話しが上手	服がじみになっている
小さい	よぼよぼ	機械によわい	ゲートボール
しわくちゃ	あまり力がだせない	かわいい	やさしい
病気になるやすい	独特な匂いを持っている	元気すぎます	私より体力がある
ガミガミうるさい	物事を忘れやすい	コマーシャルにいがいと	よくテレビでかいこの
		でる	やり方をやっています

表3 体験後の高齢者に対する記述

老化に伴う心身の変化の記述 (467個の一部抜粋)		その他の記述 (8個)	
歩きにくいので足が遅い	こまかいことがしにくい	ストロング	すごい
体を動かすのがつらい	体が細い	すごい	交通事故にあいやすい
足が悪い	いらいらしてくる	ゲーター	といえばポリデント
色がわかりにくい	えらい	(注:ゲートボールをする人)	和菓子が好きそう
歯がない	重いものを持っているみたい	ニコやか	
声が聞こえなかった	とびはねたり、しにくい		
手とかが思うように動かない	力をつかう		
外見的な特徴 (白髪, しわ, 背たけなど)			
腰が曲がって背筋が真っ直ぐにならない			

表4 加齢に伴う身体的変化に関する体験前後の記述数

(単位：個)

	体験前	体験後
しわに関する記述	52	1
白髪に関する記述	47	2
目に関する記述	45	48
歯に関する記述	40	1
耳に関する記述	37	34

表5 体験前後に目に関して記述していた内容

	体験前	体験後
C11	目が悪い	視野が狭い
C17	目が悪い	身の回りがよく見えにくい
D4	目が悪い	目が少ししか見えない
D8	目が悪い	目があまり見えなかった
D13	目が悪い	目の視野が狭い・目があんまりカラーじゃない
D17	目が悪い	見えにくい
A9	目が悪い	下の方が見えにくい・前の方がみえなかった
A15	目が悪い	目の視界が狭いからやりにくい
A36	目が悪い	目が見えにくい
B8	目が悪い	視野が狭い・目が見えにくい
B11	目が悪い	目が見にくい
B18	目が悪い	目が悪い
D7	目が悪い人が多い	視野が狭い
C6	目が悪くてめがねをかけていそう	目の見える範囲も狭い
C4	目が悪そう	視界が狭いので人とぶつかることが多そう
C24	目が見えにくい	視界が狭い
A29	目が見えにくい	目が見えにくい
A31	目が見えにくい	目も見えにくい
A18	近くが見えにくい	目が見えにくい
A19	目耳歯などが弱い	目が見えにくい
A5	老眼	老眼
A6	目が見えなくなる	視野が狭い
A17	視力が低い人が多い	前が見えにくい
A20	視力がだんだん落ちてくる	目の見える範囲が狭い
A23	視力が弱い	視野が狭い・視界が悪い
C20	メガネをかけています・遠くのもがあまり見えない	周りのものがあまり見えない
C19	物が見えにくいメガネをかけている人もいる・遠くのもが余りよく見えない	物が見えにくい

V お わ り に

高齢社会においては、幅広い層の人々が介護・福祉を行う技術を習得し、ボランティア精神を持って日常を営むことで充実することが可能である。このためにも、中学生から総合的な学習の時間や特別活動を通じ高齢者と共に生きるための理解の一步として、体験セットを用いるのは有意義であると考えられる。

(なお、本研究は、文部科学省科学研究費補助金〈若手研究(B)〉、課題番号13771470、「障害者シミュレーションを活用した子どもたちの障害者理解に関する看護・教育学的研究」、代表 福田博美)の助成を受けて実施したものである。)

文 献

- 1) 大南英明 編著：「総合的な学習」の実践に生かす教師のための福祉・介護活動の基礎知識，ぎょうせい，2000
- 2) 小池妙子：教職課程の介護等体験実習の基礎，明治図書，1999
- 3) 戸井和彦：総合的な学習の開拓31 ボランティア活動で子どもが変わる，明治図書，2002
- 4) 大谷英子，松本光子：老人イメージと形成要因に関する調査研究(1)大学生の老人イメージと生活経験の関連，日本看護研究学会雑誌，1995，18(4)，25-36
- 5) 藤岡完治 野村明美 編集：わかる授業をつくる看護教育技法3 シミュレーション・体験学習，医学書院，2000
(平成14年9月11日受理)